

校友会学術研修会のお知らせ

校友会総務担当
清水尚道

森ノ宮医療学園専門学校校友会会員対象の研修会を下記の通り開催いたします。ぜひご参加下さい。

日 時:平成18年2月26日(日) 午後1時30分から午後4時40分

場 所:森ノ宮医療学園専門学校7階講堂

演題①:「肩関節の障害について(仮題)」

医療法人淳良会 関目病院 整形外科医師 宮崎義雄先生

演題②:「AEDの実践(仮題)」

大阪医科大学麻酔科 医師 中野弘行先生

申込み:森ノ宮医療学園専門学校校友会総務担当 清水尚道

Tel 06-6976-6889 Fax 06-6973-3133

e-mail shimizu@morinomiya.ac.jp

※会場準備の都合がありますので、参加ご希望の方は上記までご連絡下さい。よろしくお願いいたします。

森ノ宮医療学園出版部 新刊ご案内

■ 季刊誌「鍼灸OSAKA」80号

特集「過敏性腸症候群」

B5判 90頁 2,039円(税込・送料別)

次号予告

81号 特集「下肢慢性動脈閉塞症」

年間購読受付中! 7,340円(送料サービス)



■ NEWS! パーフェクトツボ暗記カードが実用新案として登録されました。

ご注文・お問合せは出版部まで

Tel:06-6976-6889 Fax:06-6973-3133

ホームページからもオンライン注文受付中
<http://www.morinomiya.ac.jp/book.php>

図書室だより

■ 最近、蔵書の仲間入りをしたおすすめ本

『患者満足度 コミュニケーションと受療行動のダイナミズム』

(前田泉・徳田茂二共著 日本評論社 2004)

「患者中心の医療」という言葉はよく耳にしますが、実際のところどうするの??? となると、とたんに分からなくなってしまいます。この本は、調査に基づくたくさんの具体的事例を、実証データをもとに紹介し、「患者満足度の測定」を、「患者中心の医療」の実現のための重要な手法として提案するものです。同著者による続編『実践!患者満足度アップ』前田泉著 日本評論社 2005)もあります。いずれも読みやすく肩のこらない本です。

■ 学校までお越しの際は、図書室にもお立ち寄り下さい。

OBの方の利用は、図書や雑誌の閲覧、及び3点・2週間以内での図書の貸出しが可能です。ご利用の際は、運転免許証等現住所のわかるものをお持ちください。

開室時間 平日10:30～21:30(祝日・学校休業日を除く)

図書に関するご意見・ご希望はtosyo@morinomiya.ac.jpまで。

平成18年度最終入試／平成17年度国試日程

H18年度入試(最終)

2月19日(日) 社会人(B4)入試・一般(C2)入試

※出願期間:1月23日～2月16日

平成17年度国家試験

第14回 はり師試験 きゅう師試験

2月26日(日) 試験会場:大阪商業大学

第14回 柔道整復師試験

3月5日(日) 試験会場:大阪商業大学、または天満研修センター

治療室におすすめ! Book 受付事務 伏井奈穂子

■ 緊張を解きほぐす

『よあけ』

作・ユリー・シュルヴィッツ

訳・瀬田 貞二／福音館書店

一度開いたら、次のページを見てみたくなる、美しい絵本です。

最初のページは、夜。真っ暗な夜空を背景に、湖面に漂う1艘の小船。冷たい静けさが漂ってきます。さらにページをめくると、空がうっすらと白くなり、辺りに光が満ち始めます。

病院の待合室というのは、どんなに明るくてきれいでも、初めての患者さんにとっては心細く不安になる場所。何度も通っておられる方でもそうでしょう。ページを繰るごとに明るく美しくなっていく風景に、きっと緊張も解けてゆきます。



治療室におすすめ! CD

専任教員 永瀬佳孝

■ 心が落ち着くギターの調べ

William Ackerman/ Imaginary Roads

和音が不協和音であると不快に感じられる。しかし、次の旋律やリズムが予測できないとずっと不快に感じられる。例えば私の義父は長年テノールとして活躍してきましたが、ギターの曲を聴くと音が飛び飛びに感じられて聴きにくいと言います。とすると快く感じる音楽は個人個人によって違うということになり、ここでCDを紹介する意味がなくなってしまうのですが、誰にでも親しみのある音楽を作るためには非常に大きな才能が必要になります。

ここで紹介するWilliam AckermanのImaginary Roadsには、アコースティック・ギターを中心とした、静かな、誰にでも親しみのある曲が数多く含まれています。William Ackermanは1949年にドイツで生まれ、その後、アメリカに移り、カリフォルニアで育ちました。この年代の人にありがちなように、13歳の頃からフォーク・ミュージックに魅せられてギターを始めましたが、大学では片手間に作曲をする程度だったといえます。大学卒業後は建設会社を運営していましたが、彼の音楽を聴くことを望んだ60人の友人が5ドルずつ持ち寄ってレコード会社を設立することになります。押尾コタローのように高度なテクニックを持ったギタリストではありませんが、独特のチューニングで、聴いたらすぐにWilliam Ackermanの曲だとわかります。その多くが、彼の友人たちが、レコード会社を作らせても聴きたいと思う気持ちがわかるような気がする、心が落ち着く曲です。

